

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、引継ぎの申し送りをする際に基本理念の唱和をしているが、業務に追われて実践は厳しい。また地域の人たちにとっても安心できる居場所として活用してもらえるようにしている	今後も毎朝の申し送り時と、月1回のケア会議の際に基本理念の唱和をして、実践できるよう努めていきたい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	外歩きする利用者に対して気さくに話しかけてきたり、利用者がひとりであるところを目撃した際には連絡を下さるなど見守りもしてくれている。新型コロナウイルス感染症感染予防のために近隣との交流は中止している。	コロナ禍でご近所交流会が出来ないため区長の協力を得ながら2カ月ごとにごじゅまるの活動内容を集落内の方にチラシやSNSを活用して情報発信していただこうか？との意見もあり、検討中。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	喜界町介護予防事業の1つで二次予防教室の講師を喜界町から委託をされている。スタッフが個人的に相談を受け解決できないときは管理者に助言をもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族より、新型コロナウイルス感染症感染予防のため面会禁止の時期に携帯電話で母の動画を送ってくれたことについて感謝の言葉があり、島の家族に同じように送ってくれたら喜ばれると思いますと助言がありました。動画を送れない家族には毎月の月次報告と共に写真を送付する	コロナウイルス感染拡大防止のため、書面での報告となりました。コロナ以前は2カ月に1回会議があり色々と報告を受け実態をりる事が出来た。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議・身体拘束等の適正化委員会・入居者選定判定会に毎回2名以上の出席があり意見交換を行っている。運営だけではなく何でも相談できる関係性にある。	役場との連携は常に実施している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	早朝夕方の手薄な時間帯（17:30～8:30）は施錠しているが日中帯は常に利用者が自由に外へ出て行けるよう施錠はしていない。3月に1回身体拘束等の適正化委員会後にケア会議で事例検討を行っている。	入所者や利用者が動けば『どこ行くの』『何するの』『こっちで待って』とすぐ言葉で止めてしまうスピーチロックが見受けられる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	これまで虐待を疑われる事例は起こっていません。高齢者虐待防止への意識が高い状態なので、継続していけるように年1回勉強会を開催し意識付けしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者が成年後見人制度・日常生活自立支援事業を利用していたが関心のあるスタッフのみ制度への理解がある。実際に日常生活自立支援事業を活用している利用者と言えるスタッフが少なかったので定期的な勉強会も行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、本人・家族が納得いくまで説明し契約書を交わしている。契約後でも電話対応や面会時に契約内容について質問があれば回答している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	サービス担当者会議・家族会・運営推進会議等で外部評価で指摘を受けたことを報告すると「本当によくして頂いているので本当に何も言うことがない。良い事ではないのか？何かあれば言います」と嬉しいお言葉をご家族様から頂きました。	オンライン面会について、希望されるご家族にはSkypeを利用できる通信機器のメールアドレスを教えていただき対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のケア会議や勉強会等で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。利用者の薬の調整、室内の空調の改善があった。	月1回のケア会議や勉強会以外でも、スタッフからの意見がある場、その都度検討する体制を整えている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	処遇改善加算Ⅰ・特定処遇改善加算Ⅱを取得し給与が上がった。勤務表作成前に休み希望等を書いてもらい自由に休みが取れる努力はしている。また体調不良・子供の看病等で急な休みをとれる体制がある。他にも資格取得の支援体制がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間施設内研修計画を立て実施している。新型コロナウイルス感染症感染予防のため喜界町や喜界町社協の研修会がない。島外の研修・出張は基本的にない。他施設を見学するには実費負担で行くしかない。資格取得については受験・渡航・宿泊費用などの支援体制もある。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>日本認知症GH協会鹿児島県支部や鹿児島県GH連絡協議会に加入している。新型コロナウイルス感染症感染予防のため外部研修会や同業者との合同研修会も実施していない。また、喜界町社協の各事業所の研修時間が異なるので全員参加は難しい</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で家族と共に住み替える理由など十分に話し合い信頼関係を築いている。入居後も本人本位の姿勢で関わりスタッフとの信頼関係を作り落ち着いて生活をしている。利用者に対して嘘をつかずにしっかり対応してくれている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	デイサービス送迎時やプライベートで会った時に普段の様子を伝えたり、家族からの要望を聞くようにしている。家族から「できることは何でもしますので必要なときは相談してください」と言ってくれ、信頼関係が出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規入居者については喜界町職員、地域包括支援センター職員を含めた入居判定会を開催し入居者を決定している。利用中に状態を把握し家族・ケアマネ・地域包括支援センターに情報提供し病院受診に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ありがとう・じょうまる・かんしん・お疲れ様でしたの労いの言葉を意識して使う様にしている。事例検討を行いスタッフ主導にならないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染症感染予防のため面会禁止になり面会が出来ない状況になった。そのため家族からの電話を引き継いだり、家族に電話をして話してもらっている。最近ではビデオ通話をして顔を見ながら話してもらうことや携帯電話で動画を撮りご家族さまに送ったりしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症感染予防のためにドライブを自粛しているために自宅や家族の仕事場へ訪問する機会が減っている。個別にお墓参り・自宅訪問を行っている。スタッフが家族に会った時には元気であることを情報提供している	島内の感染状況を鑑みながら、可能な限り安全対策を徹底した上で、面会を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を探りながら歌が好きな者同士座らせ楽しんだり、いところ同士で座らせ地元の話で盛り上がりたりしている。孤立することがないように利用者同士が支え合える支援を行っている		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	プライベートで会った時に、お互いの近況を報告し合い相談に応じるなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別ケア会議を開催しセンター方式の様式を活用しみんなで意見を出し合い、介護方法などのすり合わせを行っている。意向の把握が困難な場合は家族、知人、近隣の方から情報を得て意向の把握に努めている。	本人の情報を一つでも多く収集することで、本人の安心した生活の継続に繋げることが出来る。その為にも、入居者一人ひとり、年に1回は個別ケア会議を開催している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネより基本情報を得て、常に本人・家族・知人からも情報を得るようにしている。得た情報は個別ケア会議やケア会議等で情報共有を行っている。看護師が配属され薬や病気についても把握できるようになった。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りやケース記録簿・申し送りより前日や当日の状態を把握に努めている。その時々で変化や気づきがあればその都度管理者やスタッフに口頭で報告し申し送りノートにも記入している。スタッフ個々が記録やスタッフから情報収集を行う姿勢がある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、担当スタッフから意見を聞き介護計画書を作成し、3か月に1回のモニタリングで状態変化に応じて介護計画書を変更している。毎月の月次報告書でスタッフが介護計画状況を記入することで現在の状態がケアプランに反映しているのか確認してもらっている。	担当スタッフを中心に、他のスタッフも関りから見えてくる情報等を介護計画に組み込んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>全スタッフに利用者との関わりを詳しくケース記録簿や申し送りノートに記入するようお願いし、スタッフ自身もケース記録簿や申し送りノートからその日の状態把握に努めている。また計画作成担当者はケース記録簿や申し送りノートを確認し介護計画に反映させている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通所利用者は送迎時間・場所、予定日以外の利用や時間延長サービス・朝食、夕食の提供などの体制があり実際に行っている。入居者については入院時の洗濯物支援体制、病院受診、自宅訪問、散髪、お墓参りの支援を行っている</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>以前は一人で外出する方に声を掛けてくれたりしていたが現在一人で外出する方がいない。新型コロナウイルス感染拡大防止のため面会ができない状況が続き、地域住民との交流の機会がない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の同意のもと事業所の協力医療機関をかかりつけ医として毎月1回訪問診療を受診している。看護師が配属になり夜間でもオンコール体制が整い、急変時には看護師がすぐに駆けつけてくれる。また訪問看護が急変時や受診の有無の相談に対応してくれるなど病院側の協力体制が構築されている。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>全スタッフが利用者の状態の変化に気づき看護師・管理者へ報告している。看護師は訪問看護に報告・相談し適切な処置・医療を受けている。利用者の薬の更新や訪問診療の内容を詳しく記録してくれている。</p>		
32		<p>○入退院の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した場合、早期退院を病院側にお願ひし生活リハビリで早期回復に繋げている。また看護師が早期退院に向けて病院と情報交換を行い安全に退院できている。入退院時にサマリーを提出しお互いに利用者の状況を把握できるようにしている。入院中に認知症の症状が悪化し病院側が診れない状態であれば早期の受け入れ体制がある</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>サービス担当者会議や普段から家族に高齢なので健康状態が急変する可能性があることを話している。また、サービス担当者会議や入居時に本人、家族に急変時の対応やどこで最期を迎えたいか？の確認を行っており毎年確認している。急変時の対応についてはいつでも変更できることを伝えている。デイサービス利用者はその都度家族に確認の電話をするようにしている。</p>	<p>急変時の対応はその都度意見が変わることも想定済みの為、いつでも変更可能であることをご家族に周知している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年1回施設内研修で消防分署職員を招き応急手当や心肺蘇生法の講習（一般救急講習）を開催している。また日頃から利用者の様子観察をして少しでも様子がおかしいと看護師や管理者へ報告がある</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の近隣住民・消防分署を含めた消防避難訓練の他に毎月自主で火災・津波・地震（昼間・夜間想定）の避難訓練を行っている。常備食としてお米・カップラーメン・カレー・飲料水をストックしている	実際に津波の避難の時には、日頃の訓練の成果を発揮することが出来た。しかし課題点も見えてきたため、今後も定期的に津波及び火災の避難訓練を実施していきたい。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊厳を守り、声かけを行っている。トイレでは羞恥心に配慮しドアを半分閉め、衣類で陰部を隠している。お風呂でもバスタオルやタオルで陰部を隠しながら介助している。失禁していた場合は「ごめんね、気が付かなくて」と声かけを行う様にしている。	時々「尊重」からかけ離れている言動がみられることがあるが、スタッフ間で注意できる関係性を作っていきたい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすいように選択肢を与え答えやすいようにしている。本人の意思を尊重している。意思疎通が難しい方には1つ1つの行動を声かけし理解してもらうように努めている。(状況に応じて)		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの本人の気持ちや生活スタイルを尊重し対応している。消灯時間も決めずにテレビを観たりお茶したりして寝たい時に寝てもらっている。通所利用者に関しては家族の意向もあるため出来るだけ昼寝はしないようにしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	数名の利用者は美容室を利用し思い思いのスタイル(カット・毛染め)にしている。指先にマニキュアを塗ってあげると喜ばれ、首にスカーフを巻きオシャレする利用者もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	洗い物の手伝いをしてもらったり、一緒に食事をしながら世間話をしている。利用者の好みに合わせ骨付きの肉料理を提供するなど工夫もしている。洗い物は時々利用者がしてくれている。	嗜好に関しては聞き取りをしているが、食事を残す方に関しては形態に関して考えることが少ない。なぜ残すのか？等気付きが少ない。スタッフのペースで食事介助をしていることがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や体重の増減・採血検査の値を参考にしている。また必要に応じて栄養補助飲料を使用している。太り過ぎの方には無理のない食事制限も行っている。利用者が飲みやすい飲み物（ポカリスエット・ゼリー・コーヒー・レモンティー・牛乳）で対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に合わせて声かけでできる人、介助が必要な人、ガーゼで口腔内を拭き取る人を見極め支援している。夜間ポリドントにつけるなど清潔保持に努めているので口臭が臭い利用者はいない		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	車椅子利用者も日中帯はトイレを利用してもらうトイレで排泄してもらえるように支援している。また、汚れていなかった場合やトイレで排泄したときには褒めて一緒に喜び自信がもてるように支援している。	定期的なトイレ誘導や排泄パターンのチェック等、毎日の労力が求められ大変な作業であるが、排泄の自立へつながった時は本人の喜びにも介護者の喜びが達成感にもなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤は使わずに乳製品・芋・バナナなどの便が出やすくなる食材で対応している。それでも出ない利用者に対しては緩下剤を使用し毎日の体操も欠かさず行っている。歩ける利用者はなるべく歩いてもらい運動に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日や時間の取り決めをしていない。またゆっくり1時間かけて入る利用者もいる。入浴中は湯船につかるのが好きな利用者にはゆっくりつかり、家族・仕事の話や一緒に歌をして楽しめる環境を作っている。通所利用者を入浴に優先しているため入居者が入っていない。	一人ひとりの状況に合わせて、入浴を実施している。入りたくない方に関しては無理に入れることが無いよう努めている。(失禁した時などやむを得ない時には納得するような声掛けを心掛けている)	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々々の体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休息が取れるように声かけしたり横になってもらっている。また、夜間の消灯時間は決めていないので個々が寝たい時に寝る。寝付けないときは一緒に食卓でテレビや雑談をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が配属されたことにより、薬の副作用についてわかりやすく書き出してくれたりしている。また、誤薬がないように確認作業を重複して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	風船バレーが好きな利用者は自分からやろうと言ってきたり、歌の好きな利用者は太鼓を叩くなど雰囲気を出すと喜ばれる。気分転換には大好きな歌遊び・車椅子で集落内散歩・ドライブ等で対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染症感染予防のためにドライブを自粛しているために自宅や家族の仕事場へ訪問する機会が減っている。個別にお墓参り・自宅訪問を行っている。スタッフが家族に会った時には元気であることを情報提供している。ドライブに行かないことでほとんどの入居者が下肢筋力低下が出て来ている。	ドライブは自粛しているが、月1回の避難訓練では外に出る機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の執着のある利用者がいない。お金を渡しても一時的に数えるが、お金をスタッフに渡すなどお金に対して興味がない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話があれば取次ぎ、電話してほしいと言われる利用者には、その都度電話をかけ家族と話してもらっている。携帯電話を所持し、家族からの電話がある。数名の入居者にはハガキを書いてもらい投函したことがある。動画やTV電話で対応する利用者もいます</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>夏はエアコンを利用し、春・秋・冬は窓を開け自然の空気を味わってもらうようにしている。午前中は東から夕方は西から強い光が差し込むので不快にならないよう遮光している。またホールと台所が面しているので、食事の準備の音やにおいがホール中に漂い生活感が感じられる。</p>	<p>空調等の環境整備がされ日常の生活場所としての家庭的な雰囲気は良好と思われるが、窓を開けて居ることもある。せいか、ハエが多いと感じることがある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関・ホール・食卓に自由に座れるソファを設置し思い思いにテレビをみたり利用者同士語らったり居眠りして過ごされている。また庭には東屋があり自由に出入りできる環境があり東屋で過ごす利用者もいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>タンス・籐椅子・小物入れ・寝具・衣装ケースを持ち込み自宅での生活スタイルを取り入れている利用者もいる。また、家族が居室の様様替えや飾り物をしてきている方もいる。家族の写真や手紙・ハガキを飾りいつでも眺められるようにしている。</p>	<p>家族の写真や、手紙を居室に飾る事で、いつでも見える環境を作っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>部屋の番号やトイレ(べんじょ)は一目でわかるように張り紙がしてある。</p>		